

英語学概論 (第13講)


比喩と意味論

この講で学ぶこと

- ▶ メタファー、メトニミー、シミリーを理解する。
- ▶ 共感覚を理解する。
- ▶ 意味の相対性を理解する。



メタファー (metaphor)

- ▶ 類似性に基づいて意味拡張が行われてる。つまり、ある意味を持つ語が、別の意味を示すために使われることを示す。
- ▶ You should budget ample time to prepare for the task.
- ▶ Do I have to invest serious time in this? 
- ▶ budgetとかinvest という語が別の意味で使われている。
- ▶ Time is money.
- ▶ ここでは、時間も金も有限な資源であり有効に使うべきとの認識が働いている。
- ▶ 日本語では、暖かい飲み物、冷たい飲み物、あるいは暖かいことば、冷たいことば、のように使われる。

メタファー (metaphor) と認知能力

- ▶ われらは身体を通して物事を認識しているので、感覚器官を通してじかに知覚できる具体的な事柄は明確に捉えることができる。しかし、抽象的な事柄についても、明確な形で捉えるために、具体的な事柄で得たイメージなどを投影する。



- ▶ 具体的な意味 → (意味拡張) 抽象的な意味
- ▶ 頭が痛い。実際に痛いから、「あることに悩んでいる」という意味として使われる。

意味の拡張

- ▶ 身体を表す語で比喩的な表現がある。
- ▶ 頭が切れる。
- ▶ 足を引っ張る。
- ▶ 手を焼く。
- ▶ 顔が広い。
- ▶ 顔を売る。
- ▶ 口：缶の口、口が達者、お口に合いますか。
- ▶ My son is the apple of my eye. 息子は私が大切にしている人です。
- ▶ 世間は狭い。It's a small world.




共感覚

- ▶ 共感覚とは、「音を聞くと色が見える」、「文字に色がついて見える」など、異なる知覚が連動する現象である。これらは、メタファーによく使われる。
- ▶ 共感覚ではなくても、これに似たことが日常の言葉の上である。
- ▶ 例えば「柔らかい音」という比喻表現は、触覚に関わる「柔らかい」という形容詞で「音」という聴覚の名詞を修飾している。
- ▶ 「音」の感じを触覚の「柔らかさ」に似たものとして喩えているので、比喻といえるのである。
- ▶ 味覚と聴覚（共感覚） 味覚—視覚—聴覚—触覚


共感覚

- ▶ 共感覚とは、ある情報 (文字、音、月日の概念など) を頭の中で処理しているときに、その情報が一般的な形で処理される (例：文字が文字として認識される) ことに加えて、一般的にはそれと無関係と考えられるような種類の感覚や認知処理まで引き起こされる (例：文字を見た時に色の印象を覚える) というもので、人口の数%程度の人しか持たないと考えられている。
- ▶ ランボー 『母音』 A は黒、E は白、I は赤、U は緑、O はブルー
- ▶ Voyelles -Arthur Rimbaud
- ▶ 母音たちよ、何時の日か汝らの出生の秘密を語ろう
- ▶ A は黒いコルセット、悪臭に誘われて飛び回る
- ▶ 銀蠅が群がって毛むくじゃら そのさまは深淵の入江のようだ


メトニミー (metonymy)

- ▶ 一部で全体を表す。
- ▶ Ellen dropped her jaw at sight of him.
- ▶ He turned his back on his own family when they need help.
- ▶ Long hair people are kinder to old people. 
- ▶ long hair で長髪の人全体を示す。
- ▶ 日本語では、「永田町の論理では国全体は動かない」のように永田町という言葉で、国の統治機関を示す。

シミリー(simile)

- ▶ 冬の日に飲む一杯のココアのような易しいひとこと
- ▶ 「～のような、～のように」 という意味の表現を使って類似性を示した表現をシミリーと呼ぶ。
- ▶ Cigarettes are like time bombs.

意味の相対性 big, large

- ▶ This is a big shirt.
- ▶ This is a large shirt.
- ▶ この文章であれば、「big」と「large」のどちらを使っても、「このシャツは大きい」と和訳できる。違うのは文章のニュアンスだ。一般的に、「big」は「主観的／感覚的」、「large」は「客観的」なニュアンスをもって使われる。
- ▶ つまり、「This is a big shirt.」は、「自分にとって大きい」という文章になる。たとえサイズ的に大きい服だったとしても、もし自分が小さいと感じるようであれば「big」は使わない。
- ▶ 一方、「large」は客観的な表現なので、「This is a large shirt.」であれば、「一般的なサイズよりも物理的に大きな服」を指す。それゆえに、服や食べ物のサイズが「large」と表記される。

語の意味は他の語との関係で決まる。

▶ ある語の意味が同じ言語内の他の語との意味的な関係で決まる。

▶ 大きい、小さい よい、悪い




語と語の関係

- ▶ 同義性 synonymy 意味が同じという関係 同義語 synonym
- ▶ 人間の言語には完全な同義語はあり得ないと考える研究者もいる。

- ▶ 反義性 antonymy 意味が反対である関係 反義語 antonym
- ▶ 連続的な尺度上の対称 hot-cold good-bad long-short
- ▶ 相補的な対立 alive-dead married-unmarried (divorced, bereaved, single)
- ▶ 逆方向の移動・変化 ascend-descend, lengthen-shorten
- ▶ 反対側からの関係づけ above-below, ancestor-descendant

意味の含有（上下関係）

- ▶ 上下関係(hyponymy) 意味の包括関係
- ▶ snowy owl → owl → bird → animal 含意関係(entailment)

- ▶ 分類的な上下関係 AはBの一種であるという関係
- ▶ 機能的な上下関係 AはBの一種として用いられている関係
- ▶ dog - pet cow - livestock baseball bat - weapon

人間の素朴な感情

- ▶ 人間な素朴な感情として、言語に必然性を感じる。例えば、頭では恣意的であると分かっている。
- ▶ もともとの「ことば」は強いインパクトを持っているので薄める必要がある。
- ▶ 忌み言葉→別れる、短い、冷める、切る、カットする、途絶える、離れる、落ちる、負ける、縮まる、去る、流れる、消える、終わる、忘れる、忙しい（漢字に「亡」の字が入っている） など。
- ▶ 英語では、婉曲語(euphemism, in a roundabout way)がある。
- ▶ die →pass away
- ▶ fired→ dismissed
- ▶ alcohol→adult beverages

課題

- ▶ 次の文に共通して使われるメタファーは何か考えてみよう。
- ▶ I can see why Jane is worried.
- ▶ He was blind to her intention.
- ▶ The answer became clearer.

